

いきたい。

なお、各教科の配当時数や、各学年の総時数も、各学校の一年間の実施状況を検討し、年度末までには三十三年度の試案を示すことが必要であろう。

4 完全授業について

これは、各学校の先生方のご努力によって、いちおう満足できる実績をあげたものと思われる。このことは、児童生徒の学力の向上に大きく影響しているものと考えられる。先生方に対し、深く感謝したい。

ただ、△資料五Vにあらわれているように、授業日の行事に比べ、休業日の行事が非常に多く、先生がたの負担過重が想像される。また、研究会・講習会の研修行事よりは、それ以外の一般行事がいちじるしく多い（「管内」の「授業日」の場合）ことも問題であろう。これらのことをじゅうぶん検討し、完全授業と現職教育とが無理なく両立しうるよう処置することが、今後の課題である。

教育課程の実施状況について

昭和三十二年度から教育課程を承認制として各学校の教育課程の承認をするようにした、その結果本県高等学校の実施状況はつぎのとおりである。

一、女子高等学校（一〇校）

このうちAコースをおいている学校八校、Bコース七校、Cコース九校、Dコース二校である。女子高校でCコ

ース九校おいていることは女子高校教育本来の使命より見て適切と思われるがBコースをおいていない学校が三校あることは進学率のあまり高くない本県では女子教育の望ましい実情を考慮すると問題がある。

二、男子高校（八校）

ここではCコース四校、Dコース五校、Eコース六校でEコース（理科系）を設けている学校が比較的多い。ここでおかれているコース数も三コース以下でこのぐらいであれば適切であるとおもわれる。

三、共学学校（二四校）

ここでの実施状況はつぎのとおりである。

Aコース八校、Bコース十七校、Cコース二二校、Dコース六校、Eコース四校である。B・Cコースがもっとも多くおかれているのは適切である。この種の学校で設けているコース数は一コース五校、二コース一〇校、三コース五校、四コース三校、五コース一校で、一校でコースを五つもおいてるのは研究を要すると思われる。

四、その他の学校

実業に関する課程をもつ学校の教育課程はきわめて複雑で類型化をはかるということは困難のようである。

ここでは普通一般教養の教科科目の履修がじゅうぶん取っているとは思われないので、この点については同種の学校が相寄って理想的な履修計画を立

てることが今後の課題であろう。

五、なお今年より単位計画表の形式を一部改正して、一目でその学校の履修状況がわかりかつ、年度ごとに比較ができるようにしたが全般的にみて計画を

第四節 教科書の管理運営をどのように講じたか

一、教科書センター臨時分館の設置について

1 設置の趣旨

教科書見本の展示の機会を多くして教職員等の教科書の研究をいっそう容易にするとともに、教科書の採択の公正を確保するため、教科書センターの運営の現状等にかんがみ、当分の間の措置として、各教科書センターに設けられたのである。

2 設置の経過

- (1) 文初教第一一一号（三二・四・五）文部省初等中等教育局長通達により、当分の間の措置として、各教科書センターに学校の種別ごととそれぞれ2-3程度設けられることになった。この臨時分館の設置は昭和三十二年六月十一日から七月二十日まで開設された。県内臨時分館は、小学校三十八、中学校三十五、高等学校二十三計九十六校にものうけられた。
- (2) 臨時分館には運営費等の支出はなか

立てて承認をうけたものと実施したものと、多少の差異があるものがある。理由は種々あらうがとめて計画と実施を一致さすべきものであると思料される。

したが、設置期間終了後、教科書見本は設置校の利用に供した。

二、教科書研究事業

1 研究の目的

教科書が教科の主たる教材として、有効適切に使用されるため、特にその実際使用の立場から問題となる事項について、小・中学校用教科書の内容を分析・研究することによって教科書センターを利用する教科書および教科書の共同研究の活発化を促進し、採択関係者の教科書に対する批評眼を養うとともに、教科書の質的水準の向上に寄与することを目的としたものである。

2 研究の対象

各都道府県教育委員会の希望にもとづいて定められるものであるが、本年度はつぎのようをお願いした。

小学校 算数 会津若松教科書センター
小学校 国語 三春教科書センター
中学校 理科 福島教科書センター